

TOPICS

★ベンチャー企業育成型地域コンソーシアム研究開発事業に採択

地域においてベンチャー企業（研究開発型中小企業）を核とする産業界、学界、国等が研究共同体（地域コンソーシアム）を組み、独自の基盤研究成果（技術シーズ）を活用して研究開発を効率的に推進し、新産業創出を図るとともに、ベンチャー企業育成の基盤を醸成することを、目的とした「ベンチャー企業育成型地域コンソーシアム研究開発事業」に、当センターと(株)瀬上マイクロが共同で提案していた「ハードディスク用配線付きサスペンションブランクスの研究開発」がこの

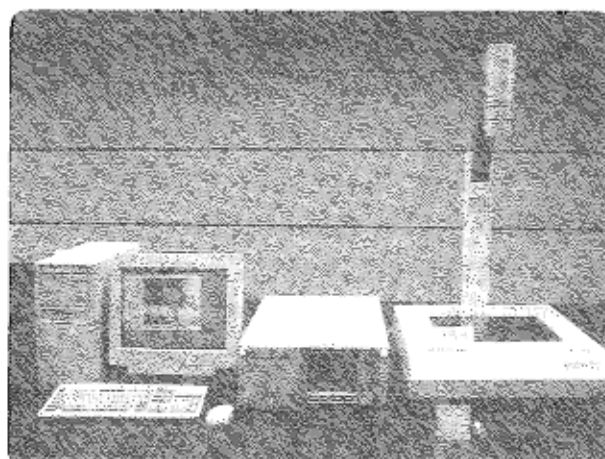
ほど採択されました。

この研究では、ハードディスクの磁気ヘッドから記録信号を得るための電気配線を、従来のワイヤー新合繊に代わり、写真製版技術やメッキ薄膜技術を応用し、従来のサスペンション材であるステンレス箔上にポリイミドによる電氣的絶縁層を成形し、その内部に信号線となる電気回路を形成した配線付きサスペンションブランクを開発します。

★電子機器誤動作対策支援システムを製品化

当センターと鹿児島大学で開発し、特許出願中の「回路実装プリント基板の誤動作箇所検出法及び検出装置」について、(株)ノイズ研究所（本社：川崎市）が実施権を取得し、平成11年1月に製品化することになりました。

この装置は、電子機器が外部から受ける電磁波に対して、プリント基板上に組み込まれている電子回路のどの部分が弱いのかを効率よく探り出すもので、誤動作対策の効率化や、誤動作現象のデータベース化による品質管理等が可能になります。



★研究成果を展示会へ出展

平成10年10月に開催された展示会に当センターの研究成果のパネルや展示物を出展しました。

出 展 内 容	展 示 会
研究報告サービス	③
育種酵母によるいも焼酎	①
紫イモを原料とする赤色酒類の製造法	②③
微粒空隙を有する陶磁器	②③
微粒中空ガラス球状体の製造方法	②③
高速切削加工技術の研究	③
プリント基板の誤動作検出装置	① ③
木材含水率測定装置	②③

- ①九州・国際テクノフェア'98 (10/22-25 北九州市)
 ②特許流通フェア'98in九州 (10/22-24 北九州市)
 ③県試験研究機関研究成果展示発表会 (10/27-28 鹿児島市)



九州・国際テクノフェア'98 (10/22-25 北九州市)

★研究員海外長期派遣研修を終えて

木材工業部 森田慎一

平成9年9月末から1年間の標記海外研修を、オーストラリアのCSIRO（連邦科学産業研究機構）の林業林産部門にて行い、この度帰国しました。CSIROはオーストラリア唯一の国立研究機関で、多岐にわたる研究部門を抱えていますが、林業林産部門はオーストラリア第2の都市メルボルンにあります。この緑豊かな美しい都市で1年を過ごせたことは、私にとって大変貴重な経験となりました。

今回の私の研修課題は、「樹木成分の総合的利用に関する研究」ということでしたが、CSIRO林業林産部門の接着研究グループにお世話になり、主にそこの仕事の一部をお手伝いするという形での研修となりました。この研究グループのリーダーである矢崎義和博士は、日本で大学院の博士課程を出られてから渡豪され、もう30年もメルボルンに住んで、世界的に活躍をされておられるという方です。矢崎博士の研究グループでは、フェノール系接着剤の開発と、それを用いた材料（再構成木材という言葉を使っていました）の開発を主に行っています。CSIROでは、木材用耐水性接着剤のひとつとして、樹皮などに含まれているタンニンを利用した接着剤が開発されています。タンニンはお茶や赤ワインにも含まれていて、健康に良いと言われているポリフェノールの1種ですが、これを利用して木材の接着が可能になっているのです。

私が最初に与えられた仕事は、タンニンを樹皮から効率良く抽出する方法について、樹皮の組織中でのタンニンの分布状態などを含めて科学的に根拠づけながら確立するということでした。これにはオーストラリアやニュージーランドで広く植林されているラジアータ・パインの樹皮を用いました。さらに、ラジアータ・パインの樹皮抽出物のうち、タンニン性を持たない成分の利用を考えるために、樹皮抽出物が菌の生長に及ぼす影響なども調べました。またこれらとは別に、東南アジアで大量に植林されているアカシアの樹皮を分析し、タンニン資源としての可能性を探るというような仕事も与えられました。このような樹皮抽出物を利用していくということは、木質資源の有効利用ということにとどまらず、今後の「持続可能な」林業・林産業を目指す上でも重要な課題のひとつと考えてこれらの仕事に取り組みました。

これらの仕事の成果は別途発表の機会もあるかと思しますのでここでは割愛しますが、ここで学んだことを今後の研究に生かし、本県の木材産業の発展に少しでも資することができるよう努めたいと考えております。

最後になりましたが、このような長期の海外研修の機会を与えてくださった県庁人事課を始め、オーストラリア滞在中にいろいろな形でお世話になりました関係各位に対して、深く感謝いたします。



林業林産部門のあるワーク研究所のエントランス



週1回のミーティング風景